

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
鉄道史ゼミ	鉄道・交通と生活の関係・変化を理解する	濱 雄亮	2年次通年
講義の目的	鉄道や各種の交通機関は、様々な形で人々の生活に変化をもたらしましたし、今ももたらし続けています。人々の鉄道・交通機関の利用の仕方も、常に変化しています。こうした変化を、各自が収集した具体的なデータに基づいて丁寧に分析することで、鉄道・交通と生活の関係・変化に関するより良い論文作成を行います。		
到達目標	鉄道・交通と生活の関係・変化を理解するために必要となるデータを見極めて収集ができること、収集したデータの分析と書籍などからの情報に基づいて仮説が立てられること、仮説を教員・他の学生に対して説明できること、教員・他の学生からの質問・助言に基づいて仮説をよりよいものにしていけることを目指します。		
講義内容	前期は主に鉄道を中心とした交通の歴史とそれによる人々の生活の変化についての書籍・論文の「輪読」を行います。また、文章表現能力とプレゼンテーション能力を身につけるための指導を行います。後期は主に卒業論文作成指導と「発表」を行います。		
講義スケジュール	第1講	前期オリエンテーション	
	第2講	鉄道史(欧米)に関する文献の輪読と議論	
	第3講	鉄道史(明治前期)に関する文献の輪読と議論	
	第4講	鉄道史(明治後期・大正期)に関する文献の輪読と議論	
	第5講	鉄道史(昭和前期)に関する文献の輪読と議論	
	第6講	鉄道史(昭和中期)に関する文献の輪読と議論	
	第7講	鉄道史(昭和後期)に関する文献の輪読と議論	
	第8講	鉄道史(平成期)に関する文献の輪読と議論	
	第9講	卒業論文構想発表と議論	
	第10講	文献・ウェブ上の情報検索の方法の説明	
	第11講	鉄道とライフスタイルに関する文献の輪読と議論	
	第12講	鉄道とポピュラーカルチャーに関する文献の輪読と議論	
	第13講	鉄道と他の交通機関の関係に関する文献の輪読と議論	
	第14講	卒業論文関連文献の検討	
	第15講	前期のまとめ	

講義スケジュール	第 16 講	後期オリエンテーション
	第 17 講	卒業論文構想発表（夏休み中の成果）と議論
	第 18 講	卒業論文作成指導（序論における問いの設定）
	第 19 講	卒業論文執筆状況報告（序論における問いの設定）と議論
	第 20 講	卒業論文作成指導（本論におけるオリジナルデータの検討）
	第 21 講	卒業論文執筆状況報告（本論におけるオリジナルデータの検討）と議論
	第 22 講	卒業論文作成指導（本論における文献の取り扱い）
	第 23 講	卒業論文執筆状況報告（本論における文献の取り扱い）と議論
	第 24 講	卒業論文作成指導（本論における分析の方法）
	第 25 講	卒業論文執筆状況報告（本論における分析の方法）と議論
	第 26 講	卒業論文作成指導（結論におけるまとめ方）
	第 27 講	卒業論文執筆状況報告（結論におけるまとめ方）と議論
	第 28 講	卒業論文作成指導（形式・書式）
	第 29 講	卒業論文執筆状況報告（形式・書式）と議論
第 30 講	後期・通年のまとめ	
指導方法	前期は文献の「輪読」、後期は卒業論文作成指導と「発表」が中心となります。「輪読」とは、本の一部や論文を、指定された学生が要約して紙と口頭で報告することです。「発表」は、その時点までの卒業論文の執筆状況を報告し（口頭発表と紙の資料）、課題を明確にするためにおこなうものです。この他に、後期の途中ではその時点での卒業論文の全文を教員に提出させることがあります。	
授業外 学習	事前学習として、文献の読解・データの収集・（必要ならば）現地調査などが必要です。事後学習として、新たに発見した疑問や課題を解決するための文献の読解・データの収集・（必要ならば）現地調査などが必要です。	
成績評価 方法	平常点（発表・発言）：50%、卒業論文：50%。	
テキスト	用いない予定です。紙の資料を配布する予定です。	
参考 書籍	老川慶喜『日本鉄道史 幕末・明治篇』中央公論新社、2014年。同『日本鉄道史 大正・昭和戦前篇』中央公論新社、2016年。高階秀爾『鉄道がつくった日本の近代』成山堂書店、2014年。原田勝正『鉄道と近代化』吉川弘文館、1998年。他にも随時紹介予定。	
事項 特記	学外での見学会を行う場合があります。 自分は何になぜ興味・疑問があるのか、何を調べれば疑問が解消するのかについて、しっかりと考える姿勢を身につけましょう。	